# No. 972

# 相模補給廠

## —神奈川—

8月5日、M48戦車の搬送を阻止してから1カ月近くになろうとしている。神奈川県相模原市の米軍補給廠のゲート前は今も騒然とした状態が続いている。〝傍観者であってはならない〟と、8月23日夜、ゲート前の討論の中から市民がたちあがった。
補給廠のすぐ近くに住む梅林宏道さん（34歳）が発起人となって生れた〝ただの市民が戦車を止める会〟。
『ヴェトナム戦争の激化の動きを戦車の増加で手にとるように知っていた。何かしたいと思っても、組織された集団の中に市民はなかなか入れない。この気持は皆同じだ。市民でなければできないことがあると信じて立ちあがった。……』
相模補給廠に並ぶ装甲車やトラックの列。全てヴェトナムの戦場から修理のため送られてきたものだ。生々しい銃弾の跡。ここで修理された戦車や装甲車は国道16号線を通って横浜のノースピアに運ばれる。8月25日、この輸送を請け負っている運輸会社から横浜相模原両市に「特殊車輌の通行許可申請」が出された。
日本の道路法に基く制限令の条件にほぼ適合しているので法的には許可せざるを得ないという見解を建設は出した。〝ただの市民が戦車を止める会〟は、補給廠ゲート前の市民の討論の結果、市長に許可しないよう要望書の提出を決めた。8月28日、要望書は渡辺相模原市助役に手渡された。あくまで阻止するという社・共両党学生、市民。戦車、兵員輸送装甲車の輸送をめぐって新たに問い直されようとしている日米安保条約。
〝ヴェトム戦争に加担したくない〟という切実な市民の声はどこまで反映されるのだろうか。
許可さえおりれば9月5日から装甲車輸送が再開される。

# 都会のメルヘン

秋の気はいを感じる8月の末、カメラは銀座に出てみました。
都市の代表ともいえる銀座。そこに集まる様々な人の折りなす世界。
そこでは誰もが、自由に、誰にとがめられることもなく好きかってなことをして生きているようでした。
雑居家族の折りなす不思議なムード。でもその一人一人はやはり、トゲトゲしく、イライラし、何かを求めているようでした。人々は解放を求めて、週に一度の歩行者天国へ、夜の酒場へと足を運ぶのです。
自らをとりもどす為に。しかし、それもまた、つかの間の幻映にすぎないのです。
政治の、社会の主人公であるはずの私たち、しかし現代の不安は常に私たちをとりまいて離れないのです。
現実という厚い壁はいくらもがこうと崩れる気はいはないのです。
銀座は現代の縮図をみせてくれ、人の生きることすらも虚構の世界かもしれないと思わせるのでした。